

## 〈編集後記〉

今回の調査季報は、今までとスタイルを変えて「生活構造動向研究会の報告書」を特集にしました。

生活構造とは、「生活を構成する諸要素が、相互に関連してつくりあげる、生活の全体的パターン」。

生活主体としての個人が、彼をとりまく一定の生活諸条件(物質・文化・空間・階層的)のもとで、一定の時間的枠組みにしたがって日常的にくりかえす生活行動(生産と消費)パターンの体系化された複合体(「テキストブック社会学」有斐閣)と説明されている。

では、市民の生活構造を把握するには、何をどのように見ればよいのであろうか。これが今回の生活構造動向研究会の大きな課題でありました。市民生活の現状を見る指標として研究会では、何度も何度も議論した結果、人口構造、産業構造、就業

構造、居住環境、余暇構造、家

計構造、健康・福祉構造、交通構造、安全構造、教育構造、市民活動、生理構造にまとめて整理してみました。これもひとつの方法であると思います。これらの指標から、市民生活の現状と課題の抽出を試みました。

なお、指標の取り方は様々で、NSIでは健康・環境と安全、経済的安定、家庭生活、勤労生活、学校生活、地域・社会活動、学習・文化活動に区分しています。また「東京の社会地図」(東大出版会・倉沢進著)では、

男性人口比率、生産年齢比率から始まり都心からの距離等まで実に百四十七項目の指標をあげています。

この作業と並行して、市民生活の現状・市民生活領域の課題抽出の視点、問題提起、提言を含めて有識者のヒアリングを行いました。このヒアリングで、これからの社会の動き、意識の変化、大事な視点、海外の都市と

の比較等、実に多くの示唆に富んだお話を聞き取ることができました。皆さんには、改めて原稿を執筆していただきました。

## 事例紹介

本号では、あまり具体的な事例は取り上げませんでしたが、皆様に紹介したい事例があります。それは、「市民の地域情報誌 宮つ子」のことです。編集・発行が西宮コミュニティ協会で、昭和五十四年十月に創刊された月刊誌です。

当時コミュニティ醸成が盛んにいわれ、多くの自治体は施設作りが中心であったが、西宮市は、既に公民館がかなり整備されていたこともあり、市民のミニコミ誌づくりを取り上げ、それに市が補助するという事業を選んだ。B5版四十頁ほど。全市共通が三十六頁、二十五の地域コミュニティが独自に編集する地域のページ(四〇八頁)が含まれている。これは、西宮市内のおおむね小学校区単位の二十五地域の自治組織・市民組織が集まって発行・配布団体をつくり、地域版を企画・編集し

ている。「その方式はそれぞれ地域において様々であるが、これまで存在しなかった数多くの協議会が形成されてきている。これらの協議会はいまだに十分に構造化されたものでない地域も多いが、ゆるい連携のものもあっても、これが形成されたところに大きな意義があるものといえよう」(「地域活動の現状」西宮コミュニティ協会)

今後の地域行政を考える際に、大変参考になると思います。

## 課題

さて、議論の中では、いくつかの課題が残りました。一つは、公共性の概念です。各人の考えている公共性の概念が違うので、この際、公共事業、公共サービスという時の公共性の中身、あるいは行政がもっている公共性の中身と、公共の福祉、公益についても考えてみる必要があると思います。

もう一つは、市民生活からみた時代区分(戦後)を試みたことです。これは、何をもって時代区分をするかが難題でした。市民生活の現状を見る指標であ

る人口構造、産業構造、就業構造、居住環境、余暇構造、家計構造、健康・福祉構造、交通構造、安全構造、教育構造、市民活動、生理構造の変化も一つの判断材料になりましたが、それ以外にも都市装置、制度・法律、市民意識、等も考慮しましたが、今後の課題として残りました。

今回もたくさんの書籍やデータを参考にさせていただきました。ひとつひとつの紹介はいたしません、今までの積み重ねにより今回の研究ができました。研究会でまとめたものは、まだほんの入り口の議論に過ぎません。今後も引き続き市民生活の課題と解決の方向を模索してまわりたいと思います。〈加藤〉

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。企画調整室まで(電話六七一一二〇二九)。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。